

市駅まちづくり通信 07

和歌山市駅前における「観光まちづくり」の可能性

第7号 2016.4.1

発行：市駅まちづくり実行会議

編集：和歌山大学観光学部永瀬研究室

2月26日に第7回市駅まちづくりワークショップが開催されました。今回は、「市駅前をどのように観光と結びつけるか」を全体のテーマとし、「A：観光拠点としての市駅」、「B：水辺の活用」、「C：雑賀衆と鷺ノ森の活用」、「D：和歌山城とのつながり」の4つの班に分かれ、それぞれのテーマごとに実現すべき具体的な取り組みについて議論しました。

第7回
WS

市駅前の「観光まちづくり」について、具体的な議論を展開。

今回は、前半が学生による事例発表、後半が各班での議論・発表という流れでした。まず永瀬ゼミの学生から、各テーマの「観光」を考える上で参考になる全国の事例をいくつか紹介しました。後半は、市駅から和歌山城周辺までを含む地図を広げ、各班のテーマの柱となるコンテンツ（要素）と、それに対する具体的なアクション（取り組み）を、短期と中長期に分けて議論しました。



各班で出た意見 ※一部、内容を考慮して整理しなおしています。

コンテンツ	短期的なアクション（1～5年で実現）	中長期的なアクション（10～20年で実現）	
A：観光拠点としての市駅	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ■お土産などの物産展 ■観光案内所の設置（アート化する・外国人観光客誘致を意識する・休憩所を兼用する） ■観光案内看板（大型で分かりやすいもの、交通機関に誘導しやすいもの） ■ゆるキャラ 	(該当なし)
	駅の魅力	<ul style="list-style-type: none"> ■駅舎に大型スーパー（特産品も売る） ■魅力的な図書館 ■広場を設ける ■音楽施設をつくる ■若者向けの店 ■車庫を利用したイベント・フリマの実施 ■市駅周辺の歴史を振り返るパネル展示 	<ul style="list-style-type: none"> ■図書館に人が集まる仕組み ■保留庄の処分 ■専門街の設置（ラーメン通りなど） ■徒歩圏内で賄える商業施設の充実
	交通	<ul style="list-style-type: none"> ■関空～市駅のリムジンバス ■大規模な無料駐車場 	■関空へのアクセス改善
B：水辺（市堀川）の活用	景観・美観	<ul style="list-style-type: none"> ■住民への啓発活動・景観に対する意識改革 ■川に面した建物の美化 	<ul style="list-style-type: none"> ■川辺の空き家の活用 ■花壇の設置・植樹 ■橋のアートイベント・ライトアップ
	遊覧船・クルーズ	<ul style="list-style-type: none"> ■乗降所の確保 ■以前の社会実験のような形で、市堀川にもう一度遊覧船やクルーズ船を走らせたい 	<ul style="list-style-type: none"> ■定期船の運行 ■和歌浦までの観光定期クルーズを運行させることで観光地の接続をする
	遊歩道	<ul style="list-style-type: none"> ■地元の子供達を案内し、市堀川を歩いてもらう魅力を知ってもらう ■住民が滞留できる場所をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ■寄合橋そばの建物を観光スポットとして活用する ■遊歩道のライトアップ
	水質浄化	<ul style="list-style-type: none"> ■泥やごみを取り払う ■ポイ捨て禁止などの徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ■釣り堀を作って釣りをする、またその魚をその場で川魚料理として召し上がる ■水泳大会をする
C：雑賀衆と鷺ノ森の活用	通り	<ul style="list-style-type: none"> ■通りに名前を付ける（孫市通り、城見通り等） ■市駅からお城までの案内板強化 ■孫市のまちとわかるようなモニュメントの設置 ■ストリートミュージアムをつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ■NHK大河ドラマ「孫市丸」「雑賀孫市」放映 ■歴史的イメージの施設改装と街並みづくり
	体験	<ul style="list-style-type: none"> ■孫市関連の芸術活動の展開 ■孫市語り部の育成（博物館との連携） ■新市民図書館に孫市コーナーをつくる ■甲冑などを着用して走る仮装マラソンの実施 ■火縄銃・甲冑・太鼓等の体験ができる場所の創出 	■孫市記念館を建て、イベントやものづくり体験を行う
	食事	<ul style="list-style-type: none"> ■孫市をテーマにした食事を作り、宣伝する ■現存するレシピを再現した孫市鍋を広める ■孫市料理コンテストの開催 ■わかやまジビエとのコラボレーション 	(該当なし)
	お寺	<ul style="list-style-type: none"> ■鷺森別院を観光地として機能させる ■月に一度「孫市デー」を作り孫市が出没する日に ■お寺で孫市の話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ■鷺ノ森から市内のゆかりの地への誘導を行う →鷺ノ森を拠点とした孫市観光ルートの作成

コンテンツ	短期的なアクション（1～5年で実現）	中長期的なアクション（10～20年で実現）	
D：和歌山城とのつながり	道	<ul style="list-style-type: none"> ■車いすの観光客へのおもてなし ■歴史ガイドによる案内 ■公衆トイレの設置 ■スマホ等を活用したゲーム性のあるウォークラリー ■魅力ある食べ物の提供（食べ歩きできるようなもの） ■店の外観を工夫 ■ストーリーづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ■まちなみの整備 ■市駅から和歌山城までをおかけ横丁風に ■歩行空間の充実 ■桜並木
	和歌山城	<ul style="list-style-type: none"> ■トイレの改築 ■季節の花の植栽 ■落ち葉の掃除、城周りの整備 ■動物園の充実 	■和歌山城の木造化（老朽化のタイミングで）
	歴史資源の活用	<ul style="list-style-type: none"> ■市駅（孫市）：織田～豊臣、和歌山城（吉宗・忍者） ■豊臣～徳川 九度山（真田幸村）：織田間の連携 ■寺町の活用 ■歴史を感じる駅舎（孫市の城をイメージ等） 	(該当なし)
	交通	■特殊バスの運行（乗りたくなるようなデザイン）	■路面電車の運行

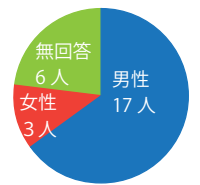
WSのまとめ

A班（市駅）では、情報発信の拠点としてだけでなく、駅そのものの魅力を高めるためのアイデアや、閑空とのつながりを活かす等の提案も見られました。B班（水辺）では、市堀川の美化活動に加え、将来的には前回の社会実験のような形で定期クルーズ船を運航させることが必要だという意見や、釣り堀を整備して魚料理が食べられるようにする等のユニークなアイデアも出ました。C班（孫市・鷺ノ森）では、和歌山市の重要な地域資源である「孫市」を、展示・体験や食など、さまざまなコンテンツと結びつけ、活用するアイデアが出されました。D班（和歌山城）では、市駅と和歌山城のつながりを具体化するための道の整備や歴史資源の活用、独自のストーリーづくりについて意見が出されました。

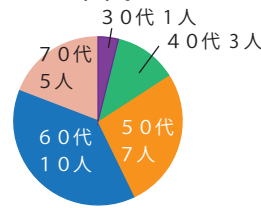
参加者の構成

ワークショップの参加者は40人（大学関係者人含む）でした。そのうち26人の方々にアンケートに答えていただくことができました。

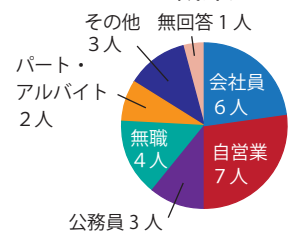
<性別>



<年代>



<職業>



参加者の声

アンケートでいただいたコメントの一部をご紹介します。

- 広報（市HP掲載）を2～3週間前から出来たら良いと思います。（40代・不明）
- コンテンツを実現するためにターゲットをしぼるというマーケティングも必要と思う。（50代・男性）
- 図書館の施設を充実させる。（カフェや学習室など）（60代・男性）
- 市駅を孫市城に！！織田信長を震え上がらせた孫市を活用しない手はないと思います。（60代・不明）
- 毎回話し合いだけで終わるのではなく、短期で実現可能な取り組みを参加している人達で行動に移せるような体制を取って欲しい。（40代・男性）
- ワークショップの時間が、少し不足気味に感じました。もっと掘り下げて議論するならテーマを砕いていく必要があると思います（50代・男性）
- 新しいメンバーも入り、市駅から少し広いエリアの寺・城までのテーマ、意見が出たのがよかった。（70代・男性）
- 和歌山は交通の便が悪いので、鉄道やバスを活かしていく方法を考えないと、発展は厳しいと思います。（50代・男性）

第12回「孫市まつり」開催！

3月27日（日）、本願寺鷺森別院にて、第12回「孫市まつり」が開催されました。開始時は雨模様でしたが、次第に青空が広がり、多くの人出で賑わいました。ステージや戦国時代劇、鉄砲演武、餅まき等に加え、本堂では映画「尻啖え孫市」の勉強会も行われました。当日は永瀬ゼミも「雑賀の地・和歌山を知るブックカフェ」を企画し、。コーヒー・お茶とともに和歌山と雑賀衆・鷺ノ森の歴史に関する本やパネル展を楽しんでいただきました



第8回ワークショップについて

次回のワークショップは、**4月27日(水)、19時より、城北連絡所にて開催します。**内容は今年の社会実験について議論する予定です。昨年の成果と課題を踏まえ、皆さんとともにより発展した社会実験を実現したいと考えています。多くの皆さまのご参加をお待ちしております！！

編集後記 早いもので、ワークショップと本通信の発行も2年目に突入しました。嬉しいことに、今回のWSは新規の参加者も多く見られました。皆さんとの取り組みがより充実したものになるよう、これからも頑張っていきたいと思います。🍀 永瀬ゼミ2回生 和田隼斗